

はじめに

この消防年報は、平成 24 年中における本市管内の消防業務の概要を紹介し、加えて、将来の消防体制と火災予防の資料とするとともに、これを消防行政上有効に活用する目的をもって集録編纂したものであります。

内容は、消防力の現況や火災、救急、予防行政にかかる実態等を主としたものであります。今後とも市民の負託に応えるため職員一同研鑽努力を重ねる所存でありますので、各位の一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。

なお、本資料は平成 24 年 12 月末日をもって作成し、統計は原則として暦年、予算及び職員関係は会計年度により表しております。

平成 25 年 6 月

岸和田市消防長

貝塚谷 光一

岸和田市民憲章

岸和田市は、自然と伝統にめぐまれ、発展をつづけるまちです。

わたしたちは、明るく豊かなまちをつくるため、市民の誇りと
願いをこめて、この憲章をさだめます。

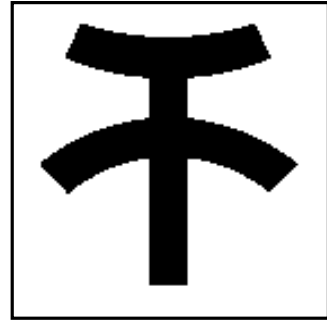
わたしたちは

- 1 自由と平和を愛し、すべての生命を尊びます。
- 1 めぐまれた自然と文化遺産を守り、住みよい環境
をつくります。
- 1 健康で教養のある人格をやしない、文化と教育
をたかめます。
- 1 働くことに喜び活力のある産業をそだてます。
- 1 ひとりひとりが自覚と責任をもち、みんなで「きし
わだのまちづくり」を進めます。

市名と市章の由来

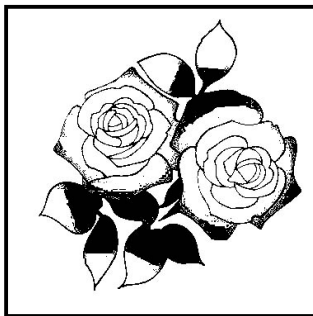
南北朝時代、当時この地は「岸」と呼ばれ、建武元年（1334）楠木正成の一族和田氏がこの地に城を築き根拠地としたことから「岸の和田氏」と呼びこれが「岸和田」の地名の起こりになったといわれています。

市章は大正9年3月、紋章を作るため懸賞募集したもので、岸和田の「岸」または「キ」の図案化あるいは、欄干橋の「干」からとったものといわれています。



市の木「クスノキ」

昭和43年、市制施行45周年を記念に、本市にふさわしい木として、市民の意見を聞き選定。



市の花「ばら」

昭和57年、市制施行60周年を記念に、市民の意見を聞き選定。

岸和田市の沿革

岸和田市は大阪平野の南部に位置し、北西は大阪湾に望み、茅渚の海の静波を経て淡路島を眺め、南東に葛城の萃峰をもって和歌山県に境し、西南は貝塚市に北東は忠岡町と和泉市に隣接しています。

本市は、その昔「岸」と呼ばれ楠木正成が建武の中興の戦功により摂津、河内、和泉3ヶ国の守護職に補せられたとき、その一族の和田高家が「岸」の代官に任命され、この地（現在の野田町）に小城を築いたと伝えられています。和田高家が赴任したころ、彼が岸の和田氏と呼ばれていたのが、いつの間にかこの地の地名になり、のち岸和田という地名に変わってきたものと思われます。

その後、戦乱の時代が続き、三好の武将、松浦肥前守が岸和田を支配したとき、現在の岸和田城の位置に小さな掻揚城を構築し、それが数代にわたって修築され岸和田のお城ができたと伝えられています。

その後は、岸和田の城主も幾度か変転しましたが、徳川幕府の基礎が固まった寛永17年、岡部宣勝が6万石の大名として入城し、城地を整え本丸、二の丸、三の丸と城内の広さは72,036余坪となり、一方、城下の整備にも力を注ぎ、南町、魚屋町、北町、野村など、ほぼ城下町としての骨格を造り現在の岸和田市に発展する素地ができました。

なお、宣勝隠居して行隆のとき、第2人に7千石を分地し岸和田藩は5万3千石となり城下町岸和田として発展、千亀利城跡に往時の名残をとどめています。

昭和29年、市民の熱望により天守閣を再建しました。

本市は、大正11年11月1日市制を施行、府下では大阪市、堺市について3番目の市として市制を施行し、今日に至っています。昭和57年に市民憲章をさだめ基本理念とする「人間尊重と環境保全」のまちづくりに邁進しています。

岸和田市の地勢

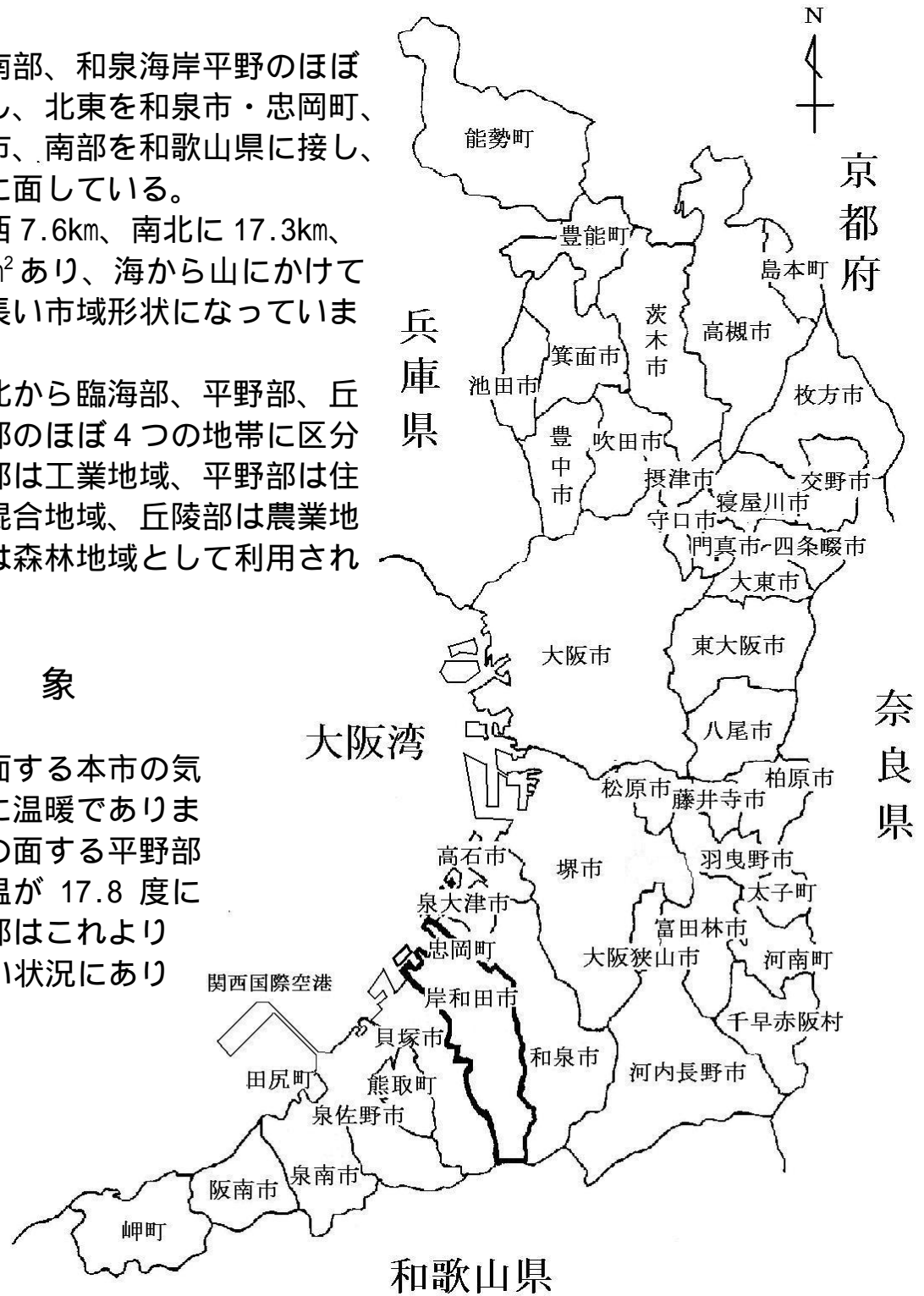
大阪府の南部、和泉海岸平野のほぼ中心に位置し、北東を和泉市・忠岡町、南西は貝塚市、南部を和歌山県に接し、西は大阪湾に面している。

地域は、東西 7.6km、南北に 17.3km、面積 72.32km²あり、海から山にかけて南北方向に長い市域形状になっています。

地形は、北から臨海部、平野部、丘陵部、山地部のほぼ4つの地帯に区分され、臨海部は工業地域、平野部は住居と商業の混合地域、丘陵部は農業地域、山地部は森林地域として利用されている。

気 象

大阪湾に面する本市の気候は、一般に温暖でありませんが、海岸の面する平野部の年平均気温が 17.8 度に対し、山地部はこれより 1～2 度低い状況にあります。



面積	72.32km ²	海拔	0.0m～865.7m
人口	201,802人	経緯度	東経135度22分16秒
世帯数	84,124世帯		北緯 34度27分38秒
(平成 24 年 12 月末日現在)			